

インシュアテックとデータマネジメント

【第1回】保険業界におけるインシュアテックの潮流

KPMGコンサルティング株式会社
保険セクターシニアマネジャー 池上 友弘

1. はじめに

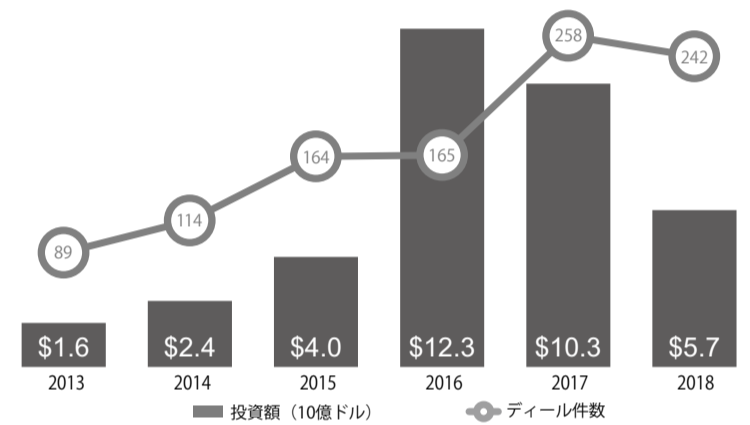
保険版フィンテックであるインシュアテックを巡る業界の動向が活発になってから久しい。さまざまな取り組みが試行実

2. インシュアテックへの投資動向

KPMGが行った調査によると、2018年のグローバルにおけるフィンテック企業への投資額は、111億8千万ドル、2017年を上り、金額・件数共に過去最高を記録している。一方で、2018年のインシュアテック投資額は、10億3千万ドルと減少している。これは、インシュアテック投資の成熟度が高まっていることによるものと見られる。また、インシュアテック投資の分野は、IoTや人工知能(AI)の活用に加え、後述するクラウドやアプリケーション・プログラミング・インターフェース(API)を活用したプラットフォームモデルの技術へ注目がシフトしている。



図表1 グローバルにおけるインシュアテック企業への投資推移 (ベンチャーキャピタル、プライベートエクイティおよびM&A)



Source: Pulse of Fintech 2018, Global Analysis of Investment in Fintech, KPMG International (data provided by PitchBook) January 4, 2019.

3. 保険のバリューチェーンにおけるインシュアテック技術の活用事例と課題

本章では最新の業界情勢を踏まえ、特に保険のバリューチェーンにおいてインシュアテックの革新技術が活用される実際のモデル事例とそれらが抱える課題について解説したい(図表2)。(1) デジタルプラットフォーム(インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディア)を柱とするビジネスモデル変革に迫られる保険会社にとって、今後さらなるインシュアテック投資の活性化に結びつく可能性が高い状況である。

図表2 保険のバリューチェーンにおけるインシュアテック技術の活用モデル

保険のバリューチェーン	商品開発	マーケティング・営業	新契約	保金	保険金支払	付帯サービス
インシュアテック革新技術						
(1) デジタルプラットフォーム	P2P保険 オンデマンド保険 健康増進型保険		顧客接点の可用性向上		損害通知の即時化 事故映像の記録化(クラウドストレージ)	健康増進サービス テレマティクスサービス
(2) IoTとウェアラブル	テレマティクス保険 利用ベース保険		契約手続きの自動化(契約・異動)		損害通知の自動化 損害査定の高効率化(スマートグラス・ドローン)	コネクテッドサービス
(3) オートメーションとロボティクス			事務処理の自動化(契約・異動・支払)			
(4) 人工知能(AI)と機械学習	新規データを活用した新商品開発	アップセル・クロスセルの高度化	引受査定・不正契約検知の自動化	ライフイベントマーケティングの自動化	損害査定・不正請求検知の自動化	付帯サービスの最適化 コンテンツの最適化
(5) ビッグデータとデータアナリティクス	非構造化データ・リアルタイムデータ・画像・音声データの外部データ	顧客満足度・リコメンドの最適化	顧客満足度コントロールの最適化	ライフイベント・解約予測の高度化	大規模災害予測の高度化	契約者向けプログラムの高度化
(6) 分散型台帳技術(DLT)	ブロックチェーンを活用した新商品開発		契約手続きの高度化(契約・異動・支払)		決済の高度化(保険料収納・保険金送金)	ブロックチェーンを活用した新サービス開発
(7) クラウドなどのXaaS					クラウドを活用したシステム構築の高度化(Software-as-a-Service(SaaS)の活用)	
(8) マイクロサービスとAPI					新たなエコシステム構築による保険サービスの提供(Insurance-as-a-Service(IaaS)の提供)	APIプラットフォームを活用したビジネスモデル構築(Platform-as-a-Service(PaaS)の活用)

(“Insurance technology: Progress on digital strategies”, KPMG International, 6 November 2018. を基に著者作成)

目的や期間を任意で設定し、簡単な加入を可能とするオンデマンド保険の発達に寄与することとなった。独フレンドシユアランス社が提供するP2P保険や米トロプ社が提供するオンデマンド保険は代表事例として知られる。一方で、P2Pコンセプトによる自動車保険を提供していた英ケバラ社が2017年に活動を停止したことは、ニッチ領域ではないメイン領域でのP2P保険実現の困難さを物語った結果となり、伝統的保険との差別化が今後の課題と言える。

(2) IoTとウェアラブル
コネクテッドカーやスマートホームで自動接続されるデータを基にしたテレマティクス保険、ウェアラブルデバイスにより収集される健康データを基にする健康増進型保険の開発・普及にIoTが寄与している。既に世界中の保険会社やインシュアテックベンチャー企業によりこれらの商品化・普及が進んでいるが、今後はより精度の高いデータ分析を踏まえた個人嗜好の強い商品開発が進み、契約手続き・損害通知の自動化や付帯サービス充実においても進化型の活用モデルが期待される。

(3) オートメーションとロボティクス
主に、新契約・保金・

ターライティング)。また、ヒトの手作業では発見が困難であった不正契約・不正請求の事前検知などにおいて、その高度化が期待される。(5) ビッグデータとデータアナリティクス
前述のAIの技術とビッグデータを掛け合わせることでデータアナリティクスの高度化の可能性は飛躍的に高まる。従来、自動車保険や火災保険などの大衆保険において料率算出機構が集約し分析を行っていた範囲から、さらに広範な個人・法人データの共通化によるデータの「量の拡大」が期待される。また、データの「質の向上」として従来集・分析が不可能であった非構造化データやリアルタイムデータ、医療・健康データなどを活用することで、より嗜好度の高い新商品開発が期待される。一方で、個人データを対象とするGDPR(一般データ保護規則)GD

(5) 面へつづく

(4面からつづく)

(7)クラウドなどのXaaS
クラウドテクノロジーの発達により、重厚長大な基幹システムの保有を不要とするソフトウェア・アズ・ア・サービス(SaaS)などの技術は、必要なソフトウェアをサービスとして提供・享受することを可能とし、保険会社のビジネスの機動性を高めるものである。保有期間が数十年にわたるレガシーシステムの負担に縛られる保険会社にとって、短期間・低コストの簡易なシステム構築を可能にする新技術として活用が広がっている。

(8)マイクロサービスとAPI
バンキング・アズ・ア・サービス(BaaS)の保険版としてインシュアランス・アズ・ア・サービス(IaaS)の拡大が注目されている。既に銀行業界では、独フィードル銀行の事例を始めとするオープンAPIの潮流が盛んである。クラウドOS上に自社のAPIプラットフォームを公開し、先進技術の導入を加速化したい金融機関と新たな技術を生み出すフィンテックベンチャー企業とのコラボレーションが進んでいる。保険業界の事例では、仏アクサ社において、インシュアランスAPIと称するIaaSを活用し、旅行・家計・自動車分野での異業種による簡単なデジタル保険サービスの提供を可能とするなど、機動性の高い新たなエコシステムの構築を図っている。さらなる潮流

フィンテックおよびインシュアテックの派生型としてレグテック(RegTech)による規制コンプライアンス対応の自動化・高度化が進んでいる。これは前述した類の革新技術(ビッグデータ、AI、ブロックチェーンなど)を規制対応・準拠へのソリューションとして活用する動きである。マネーロンダリング防止(AML)や顧客確認(KYC)の分野でも活用が進んでおり、今後さらなる発展が期待される。

4. まとめ
第1回は、グローバル全体の動向を俯瞰し、保険業界におけるインシュアテックの大きな潮流に主眼を置き、それらの実例と今後の課題について解説をした。特にAIの技術やビッグデータも関連性の高いデータアナリティクス、そしてその高度化に資するデータマネジメントの重要性を抜きに今後の保険業界を語ることはできないであろう。第2回以降では、②インシュアテック導入の前提となるデータマネジメント、③保険業界におけるデータアナリティクスの活用、④データ活用のためのカタログ作成、⑤データ戦略とデータガバナンス、⑥について解説をしていきたい。

(つづく)